



こどもまんなか・県民会議

～第11号～

県民会議

藤井麗煌さん(鹿島市立西部中学校2年)が最優秀賞受賞

「第46回少年の主張佐賀県大会」開催！

令和6年8月24日(土)、アバンセホール(佐賀市)にて「第46回少年の主張佐賀県大会」を開催、10名の中学生がそれぞれの思い、考えを堂々と主張しました。

審査結果は右表のとおりであり、最優秀賞は、鹿島市立西部中学校2年 **藤井麗煌** さんの「西九州新幹線開業から思ったこと」が選ばれました。

結果発表後、審査委員長を務めたNHK佐賀放送局の緒方コンテンツセンター長から「これからも色んな意見を聞き、言い続けてください。大変だけどそれが民主主義だと思います。」との言葉が発表者に贈られました。

大会の司会は佐賀清和中学校の矢ヶ部久未さんと田中奏心さん、受付及び大会運営の補助を成穎中学校の浦田彩世さん、高村奈央さん、大林未沙さんに務めていただきました。

また、意見発表の後、結果発表前で緊張している発表者や会場の皆さんに向けて、佐賀市立城西中学校吹奏楽部による吹奏楽演奏を楽しんでいただきました。 **【以下、各発表者の主張概要(文責:事務局)】**

第46回少年の主張佐賀県大会結果(敬称略)

区分	氏名	学校名
最優秀賞	藤井 麗煌	鹿島市立西部中学校2年
優秀賞	石本 菜帆	成穎中学校1年
優秀賞	小川 ひかり	佐賀市立城西中学校2年
優良賞	藤森 菜々美	多久市立東原産舎東部校9年
優良賞	永松 巳奈	佐賀清和中学校2年
優良賞	栗田 桜雅	龍谷中学校3年
優良賞	山口 紫和	鹿島市立西部中学校1年
優良賞	諸石 うた	成穎中学校1年
優良賞	坂西 桃	佐賀清和中学校3年
優良賞	福島 凛	佐賀県立致遠館中学校3年

※優秀賞及び優良賞の記載は発表順



最優秀賞

藤井 麗煌さん(鹿島西部中2年)
「西九州新幹線開業から思ったこと」

2022年9月23日、西九州新幹線が開業した。

今後、国、長崎県、鉄道会社は速達性を高め利用者や観光客を増やしていくため、博多駅と長崎駅を直通させたい一方、佐賀県は財政負担や在来線の利便性低下が懸念され反対している。

佐賀県内でも、新幹線が通ることで鹿島市の人は特急電車の本数が減るなど不便になって嫌だろうが、通る地域の人には便利になって嬉しいと思うだろう。

意見が対立した時、双方が完璧に満足できる結果が得られることはほとんどなく、自分の意見を大切に主張する一方で、相手の意見も大切に受け入れることが重要だと思う。自分の意見も相手の意見も尊重することができると、お互いに納得のいく結果に近づくとと思う。

【審査評】大人も右往左往している地元の問題に向き合った結果、皆が満足する答えはなく互いに歩み寄って解決策を探るという「民主主義」の本質にたどり着いている。



優秀賞 石本 菜帆さん(成穎中1年) 「町を救いたい」

「白石町は2050年に消滅する可能性があります。」今春、3つの中学校が統合し、2年後には通っていた小学校も閉校に。電車やバスの本数も少なく不便だが、私は生まれ育った白石町が大好きだ。産物は豊富で美味しいのどかで住みよい。

10年前の消滅可能性自治体のいくつかは今も脱却しており、白石町も脱する可能性はまだある。若い世代が白石町に住み続けたいと思えるような取組みこそが町を救うのではないかな。私も今からできることを考えていきたい。

【審査評】自分の住んでいる町の問題を自分の問題として引き付けて考えていくという姿勢に感心した。



優秀賞 小川 ひかりさん(城西中2年) 「優しさのバトン」

私はひざから下の感覚がほとんどないが、沢山の人に見守られてきたおかげで、今や体育祭にも皆と一緒に参加できる。障害者は、特性であり生きづらさだ。特別扱いを望んでいるのではなく、少しの支援や工夫、声をかけられながら安心して生きていだけだ。同じ社会の中で生きるためには、相手のために何か特別なことよりも、足りないものを補い、その人に必要な支援をすることが大事だ。これまでに沢山のひとにももらった優しさを次の人に繋げられるよう努力していきたい。

【審査評】障害の有無を障害者の方に意識させてしまう社会こそ変わるべきだと主張しつつ、自らも優しさのバトンをつなぐ使命を自覚している。



優良賞
藤森 菜々美さん
(東原岸舎東部校9年)
「夢が輝き出す」

5年生から英語が好きになり、年々海外で働きたいという思いが強くなったが、自分の思いが伝わらないもどかしさも経験し、生活に少しでも英語を取り入れることを意識した。京都旅行のおり、流暢な英語で日本の文化を外国人に説明しているガイドさんを見て、日本の魅力を海外の人にもっと伝えたいために英語を生かす、それが、今の私の夢となって輝き出す。



優良賞
永松 巳奈さん
(佐賀清和中2年)
「世界に届け、思いやり」

ミャンマーでは、軍の武力によって、デモ参加者1万5千人が拘束され、死者3千人以上出ているといわれているが、「ウクライナ」「ガザ」に比べ知られていない。そんなミャンマーに私たちができることは、もっと現状を知ることだ。見て見ぬふりをせず「自分事」として捉えてほしい。助けを求める人々への思いやりは、世界に届くはずだ。



優良賞
栗田 桜雅さん
(龍谷中3年)
「リーダーシップを手に入れるために」

私は生徒会長だが、小さい時から自分はリーダーシップがないと感じており、先輩たちをまとめられず悩んでいた。ある時、リーダーシップは才能ではなく、意識して身に付けるものだを知った。私の場合、しっかり目標・目的を持つことで発揮できるという。これから生徒会長として、魅力があり、居心地のよい学校にするため、リーダーシップを鍛え上げたい。



優良賞
山口 紫和さん
(鹿島市立西部中1年)
「便利さとリスクの狭間で」

念願の携帯を手にしたが、当初、SNSでの誹謗中傷やいじめ、ゲーム課金、依存症への恐れがあった。一方、友達と繋がったり、好きなものが増えていく感覚は楽しく、恐怖心が薄れていくのに気づく。何ごととも便利さとリスクがあることをきちんと理解し、その使い方を間違わないこと、時々使い始めた時の緊張感を思い出すことが大切だ。



優良賞
諸石 うたさん
(成瀬中1年)
「大きな使命」

曾祖父は、戦後被爆者支援に携わったが、その悲惨な様子を長らく人に話せなかった。もう一人の曾祖父は「戦う相手にも大切な家族がいることが分からなくなってしまい、それが戦争だ」と語った。目の前にいる人を大切にできれば、安易に戦争を選択する世界を無くせるかも知れない。戦争が起きない未来を必ず創り上げる。それが、私達の大きな使命だ。



優良賞
坂西 桃さん
(佐賀清和3年)
「言葉を大切に」

言葉は、私たちの感情や思い、この世界にある様々な「現象」を表すことができ、心を穏やかにしたり、人を癒す「薬」になるが、一方、人を傷つける「刃」にもなる。言葉は、心の種から芽が出て、現象や感情が幹となり、葉っぱとして具現化されるものだ。言葉は難しいものだからこそ、人を傷つけるのではなく、嬉しい、優しい気持ちになるよう大切にしていきたい。



優良賞
福島 凜さん
(致遠館中3年)
「最近の中学生のお金の使い方」

遊びに行くと、ついお金を使いすぎてしまうが、お金は自分で稼いだものではない。また、ネット通販やゲーム課金などボタンを押すだけで済むキャッシュレス決済では支払う感覚が薄くなる。私たちの手にあるのは親たちが稼いだお金であり、それを単に娯楽に浪費するのではなく、管理の仕方を身に付け、お金の使い方を見直してみたらどうだろうか。

佐賀市立城西中学校(吹奏楽部) ~大会を盛り上げていただきました~



来場者アンケートから

- ・身近なことに問題を見つけ考えようとしていることは素晴らしい。
- ・沢山のことを調べ自分の思いを伝えられすごいと思う。
- ・皆さん落ち着いて明確に説得力のある話し方でした。戦争について話されたことに感動(涙)を覚えました。
- ・社会を気にせず、少年たちが思っていることをストレートに主張することに感銘を受けた。
- ・それぞれの主張は素晴らしい問題提起ですので、それを題材として学校等で深く議論されたらよいと思います。主張は反論されて深まってくると考えます。

本紙では、皆様から寄せられたこども・若者育成支援に関する情報をもとに発行してまいります。郵送、FAX 又はメールにて情報を御提供ください。

佐賀県青少年育成県民会議事務局

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号 佐賀県こども未来課内

☎: 0952(25)7350 FAX: 0952(25)7339 E-Mail: kenminkaigi-saga@b2.bunbun.ne.jp



県民会議ホームページ
QRコード